辺野古埋め立て承認を許さず、名護市長選勝利で新基地建設を阻止しよう（談話）

2013 年 12 月 27 日

安保破棄中央実行委員会

事務局長　東森英男

仲井真沖縄県知事は本日、安倍政権が求めていた辺野古新基地建設のための公有水面埋め立て承認申請を許可する決定をおこないました。

私たちは、「基地の県内移設反対」という沖縄県民の総意を無視して不当な決定をおこなった仲井真知事に強く抗議し、撤回を求めるものです。同時に、自民党沖縄県連への政策転換強要など、民意を無視して無理やり新基地建設を押し付ける安倍政権に強い憤りを表明するものです。

今回の決定は、41 全市町村長、県議らによる 2013 年 1 月の「建白書」などに示された県民多数の世論に挑戦するものです。また、2010 年の知事選で仲井真知事自身が県民に示した公約を公然と裏切るものです。さらに、希少生物の絶滅の危険をはじめ、自然環境を乱暴に破壊するものであり、住民・国民の合意を得ることのできないものです。

安倍内閣は「普天間基地の移設」といいながら、最新鋭の巨大な基地を日本国民の税金を使ってつくろうとするものであり、他方で、普天間基地の「補修費」に多額の予算を計上し、自ら「固定化」をはかろうとしています。

安倍首相が仲井真知事に提示した「負担軽減策」はすべて不確実な口約束であり、「承認」の根拠となるものではありません。

知事の「承認」によって、辺野古沖の埋め立てや辺野古新基地建設が直ちにすすむものではありません。

建設予定地である名護市長と名護市議会は新基地建設に明確に反対しており、これを無視した強行は許されません。

安倍内閣による辺野古新基地建設への無法なごり押しは、先に閣議決定された「国家安全保障戦略」「新防衛大綱」などと一体のものであり、日米一体による軍拡はアジアの平和に逆行するものです。

私たちは、あらためて辺野古新基地建設を許さない決意を表明するとともに、1 月 19 におこなわれる名護市長選挙で、「海にも陸にも新しい基地はつくらせない」との公約を守って奮闘している稲嶺ススム市長の再選をかちとるために全力をあげる決意を表明するものです。

以上